

# お元気ですか?

創刊号

2020年7月発行



 公立富岡総合病院

## CONTENTS

-   合併号創刊によせて（企業長・七日市院長） …… 2
-  新型コロナウイルス感染症 …… 3
-  一般外来受診のご案内 …… 4
-  視能訓練士の仕事 …… 5
-  シリーズ職場紹介（血液浄化室） …… 6
-  病院機能評価の報告 …… 7
-  研修医の紹介 …… 8
-  病院ニュース、入院・転院のご相談 …… 9
-  病院の紹介 …… 10-11
-   地域医療連携だより …… 12



 公立七日市病院

「お元気ですか」  
合併号創刊によせて



富岡地域医療企業団  
企業長 佐藤 尚文

読者の皆様にもまず「合併号」の説明をいたします。従来、公立富岡総合病院から「お元気ですか」公立七日市病院から「地域連携だより」という広報誌が出されていましたが、今回から統合して企業団よりリニューアル「お元気ですか」を発刊いたします。

さて、今回の新型コロナウイルス感染症は、私たちの社会が、というより人類が1918年のスペイン風邪以来100年ぶりに経験した世界的大流行となりました。日本では約18000人が感染し、約9000人の方が命を落としました。感染の大流行を止めるために休校や社会活動の自粛という形で人と人の接触を減らし、何とか大きな山を越えましたが、しかし犠牲は感染者ばかりでなく、実に数百万人の人々が経済的困窮や就学継続困難に追い込まれ、こちらでもまた命の危険や人生の転換を余儀なくされるものであつ

たことを忘れてはならないと思えます。さらに歴史に学ぶなら社会活動の再開で第2第3の流行も懸念されています。私たちは今回の惨事から実に多くを学びました。今後社会の在り方、国の在り方についてまで変えなくてはならないと言うことです。医療現場ではマスクや術衣、外科的手袋などの物資がほとんど国外での生産であることから、予定手術が制限を受けましたし、またPCR検査が迅速に出来なかつたのも試葉が外国産であり供給が極端に制限されたことによりました。いずれも国産より安いという理由で長い間そのほとんど100%の供給を海外依存してきた結果でした。グローバル化という聞こえの良い言葉ですが、今回はその弱点を衝かれました。考えてみれば日本は食糧自給率（カロリーで）は38%、エネルギー自給率にいたつては僅か9.6%に過ぎません。郊外にできれば休耕地が目立ちます。今回の新型コロナウイルスでは「日本はこれで良いのか？」という問いを突きつけられたと感じています。今後次第に収束していくと期待しますが完全に消えることは期待できませんし、社会の構造、また医療の形も元に戻ることは出来ません。新たな社会作りを念頭に医療の再建に取り組みたいと思います。最後になりますが、今回多くの地元企業からマスクなどの医療品や食品などの御寄付を頂きました。地域の皆さんが応援してくださる気持ちに心から感謝しています。有り難うございました。

病院広報誌「お元気ですか」  
リニューアルに寄せて



公立七日市病院  
副企業長兼院長  
竹原 健

公立七日市病院  
の竹原でございます。  
公立富岡総合病院  
広報誌「お元気です  
か」が富岡地域医療  
企業団の広報誌と

してリニューアルされることになり、企業団の一員である公立七日市病院も仲間に入れていただけることとなりました。

公立七日市病院は公立富岡総合病院の前身である富岡厚生病院の跡地に平成6年4月に開設されました。開設以来25年を経過しております。この25年の間に少子高齢化はどんどん進んで、医療はめまぐるしい変遷を遂げておりますが、当院はこの地域においてその時代に沿いながら高齢者を中心とした医療に取り組んでまいりました。その姿勢をこれからも貫きたいと思っております。

現在、新型コロナウイルス感染症により世界は大変な試練に見舞われております。医療・介護における影響も甚大であり、この原稿を書いている5月末では一時小康状態を呈しているようですが、今後、寒くなる時期に第2波、第3波が起きる可能性が高いといわれています。この感染症の怖いところは高齢者が感染するとより重症化しやすいということです。確立した治療法がまだないだけに感染予防がとても重要と考えております。七日市病院でもそのことを念頭に置きながら、日々の医療を進めていきたいと存じます。これからどうぞよろしくお願いいたします。

# 新型コロナウイルス感染症に立ち向かう。 富岡地域外来・検査センター（PCRセンター）立ち上げに寄せて

飯塚 邦彦

令和2年5月25日、日本政府は新型コロナウイルス感染症（COVID-19と表記）の緊急事態宣言を全面解除しま

した。しかし今後もこのウイルスは私達の身近に潜み、第2波への警戒と生活様式の見直しが必要とテレビで安倍首相が話しています。首相の隣では尾身茂先生が総理を補佐しています。11年前の平成21年5月、メキシコ発の新型インフルエンザが致死率の高い強毒性ではないかと国中、騒然としていました。当時、県内初のインフルエンザ対策要項がこの地域で作られていましたが、その評価も含め尾身先生を招き当地区の感染症の対策を練りました。先生のリクエストでまだ世界遺産にはなっていない富岡製糸場で会議は開催されました。尾身先生は私の母校の4年先輩で当時は自治医科大学公衆衛生学の教授でした。「写真の中の私は今より太っていて髪の毛もフサフサしていま

すが、尾身先生は昔も今も白髪が増えた以外殆ど変わっていないな。」

平成10年9月、尾身先生はWHOの西太平洋地域事務局長になりました。その前年1997年（平成9年）にポリオ（急性灰白髄炎）の撲滅を目標より3年早く西太平洋地域で達成した功績が評価されたのです。先日先生のことを「御用学者」と揶揄する週刊誌記事を見かけましたが的外れです。写真をご覧ください。先生は家禽と一体のアジアの生活に飛び込み強毒性インフルエンザが家禽からヒトへ広がることを実体験していますね。伊豆七島を中心とする僻地医療に従事した経験を背景とする地域現場主義のリアリストというべきでしょう。そこには机上の空論をかざす御用学者のイメージは微塵もありません。「前回同様、国会お疲れ様です、尾身先生。」

さて、今回私は当地区医師会会

長の大竹雄二先生から協力の依頼がありました。発熱外来、できればPCR検査できる帰国・接触者外来を富岡甘楽地域で開く必要があるとおっしゃいました。前回の新型イン

フルエンザ騒動の時にも感じたことですが富岡市甘楽郡医師会の先生方はとても熱心です。私も是非お手伝いしたいと思いました。何度も医師会、保健福祉事務所、富岡総合の職員を交えて皆で検討した結果、富岡市独自の仕組み、「富岡地域外来・検査センター（PCRセンター）」が令和2年5月11日から開設されました。幸い当地区では該当する患者さんは激減していますが、もし第2波のCOVID-19感染増加があれば地域医療に大きな役割を果たすことでしょう。地域の力を合わせてCOVID-19に立ち向かいましょう。「尾身先生、今回は自力でやれそうです。」



11年前の飯塚と尾身先生



36年前の尾身茂先生

## 一般外来受診のご案内

初めて受診される方や予約のない方は中央受付で受付してください。  
診察券のある方はお持ちください。保険証は、月に1度確認しております。  
保険証が変わったときは、必ず受付に提示してください。

**一般外来診療受付時間** 8:30 ~ 11:00 (土・日・祝日・年末年始を除く)

### かかりつけ医のある方は、『紹介状』をお持ちください

(診療情報提供書)

ふだん受診している医療機関がある方は、治療経過や投薬内容等が記載された紹介状（診療情報提供書）をお持ちください。かかりつけ医での治療経過や投薬内容を情報提供していただくことで、より良いスムーズな診察を行うことができます。

内科、整形外科は完全紹介制、消化器科は完全紹介予約制です。

眼科、歯科口腔外科では、前医の治療内容がわからないと診察できない場合があります。



### 初診時選定療養費について

かかりつけ医（医院、診療所等）と病院との機能分担・連携を図るという国の方針に基づき、当院でも初診時に紹介状をお持ちでない患者さんには、通常の初診料等の医療費とは別に、初診時選定療養費として1,650円（消費税含む）をお支払いいただいております。

### 電話予約、当日電話受付をご利用ください（一部の科のみ）

一部の診療科では、3ヶ月以内に受診したことがある、紹介状（診療情報提供書）がある等の条件により、電話予約が可能です。まずはお電話でお問合せください。

消化器科は完全紹介予約制ですので、紹介状（診療情報提供書）をご準備のうえ、事前予約をお願いします（緊急時を除きます）。

小児科、産婦人科の再診の方は、電話で当日受付することができます。来院されましたら中央受付カウンターの「当日電話受付票」をご記入の上、診療科に提出してください。

**予約・予約変更** 8:30 ~ 17:00

**当日電話受付** 8:30 ~ 10:30  
(小児科、産婦人科の再診)

TEL:0274-63-2112 (予約専用)  
(土・日・祝日・年末年始を除く)



**受診に関するお問合せ TEL:0274-63-2111 (代) 医療情報課受付係**



# 視能訓練士の仕事

視能訓練士は、小児の弱視や斜視の視能矯正や視機能の検査を行う国家資格を持つ技術職です。当院には2名在籍しています。

眼科には、病気を診断するまでに視力検査・屈折検査・視野検査・OCT（網膜や脈絡膜の断層像撮影）・眼底写真の撮影など様々な検査があります。

私達は、そのような検査も日々行っています。

3歳児検診では、早期に訓練を始めた方がよい小児の弱視（視力の発達途中で何らかの原因により正常な発達が遅れて眼鏡をかけても視力が出ない状態）や斜視（外見的に眼の位置がずれている）も多く見つかるようになりました。

視能訓練士

菅原 恵里  
金子 恵美子

斜視や弱視の訓練や治療は、早期発見が大切です。

私達は検診などで異常が見つかった子供達が、視能訓練をしながら早期に視機能を戻せるようにお手伝いできればと思っています。

テレビを近くで見る・明るいところで片眼をつむる・視線が合わないなど、お子さんの眼がおかしいなと思ったらご相談ください。



## 視覚の発達

赤ちゃんは生まれてすぐから大人と同じようにはつきり見えているわけではありません。成長と共に2つの「見る機能」【視力・両眼視】が発達してきます。

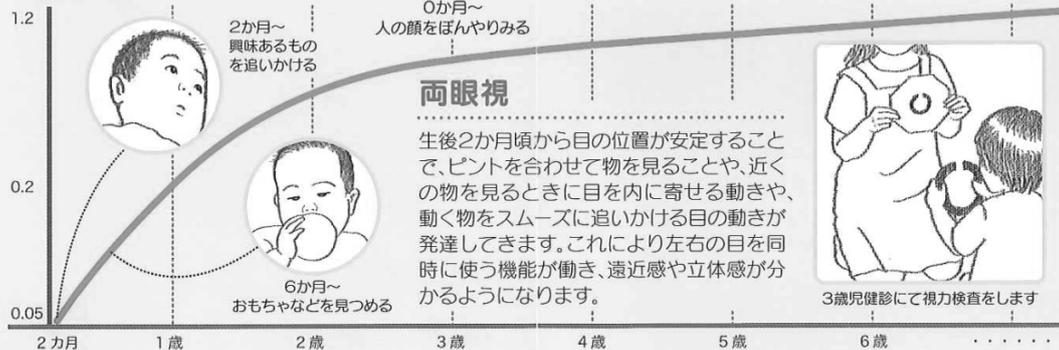
### 視力

生まれたばかりの赤ちゃんは視線も定まらず、とてもぼんやりと見えています。それが見ることを続けるうちに、次第に見えるようになり、誰であるかが分かり、笑っているなどの表情まで判別できるようになります。



0か月～  
人の顔をぼんやりみる

### 視覚の発達曲線



## 視覚の発達する時期【視覚感受性期】は限られています。

生後3か月～6か月ぐらゐまでに急激に発達し、8歳くらいまで緩やかに発達していきます。成長する過程で何らかの問題が生じ正常に発達できないと、見る機能に影響を及ぼす可能性があります。問題を残したままにして視覚感受性期を過ぎてしまうと、年齢が大きくなってから治療を始めても手遅れになってしまうことがあります。

出典日本視能訓練士協会ホームページより引用

## シリーズ職場紹介

## 血液浄化室

血液浄化室では「自分が受けたい医療を提供する」を理念に、泌尿器科医師、看護師、臨床工学技士、薬剤師、医療ソーシャルワーカー、クラーク等、チームで透析医療を行なっています。

血液浄化療法とは、腎臓のほか、心臓、肝臓、脾臓などの内臓や血液自体に障害をきたした場合に、少量の血液（150mL程度）を体の外に循環させてその間にきれいに（浄化）して体に戻す治療法で、血液透析がその代表的な治療法です。腹膜を利用した腹膜透析も血液浄化療法の一つです。対象疾患と治療法については、慢性腎不全に対する血液透析やオンラインHDF、心機能低下に対する間歇補充型HDF、高脂血症に対するLDL吸着、劇症肝炎に対する血漿交換、膠原病など免疫疾患、ABO型不適合腎移植に対する二重濾過膜血漿分離交換、潰瘍性大腸炎に対する白血球除去療法、採取され

た腹水を濃縮して栄養分だけを患者さんに戻す腹水濾過濃縮再注入など、血液浄化療法全般を行っています。

また、透析液清浄化（透析液中の細菌を無くすこと）を臨床工学技士で徹底して行っており、全国でもレベルの高い透析液の水質を維持し、患者さんの合併症予防に努めています。

シャント管理では、その有用性（非侵襲的にすばやく評価が行えること）から急速に普及している超音波診断装置を用いたシャント管理を行っています。外来維持透析患者さんの定期的なシャント評価、シャントトラブル時の評価などを行い、医師と連携して治療に反映できるように努めています。

また、透析患者さんの末梢動脈疾患は、不良な予後と関係します。血液浄化室では、看護師が中心となり、血流低下を早期に発見できるように、毎月定期的に透析患者さん全員の足を観察しています。足の動脈を触っ

たり、皮膚の色をみて異常がないかチェックしています。さらに糖尿病の方は、神経障害のチェックや、潰瘍ができていないか観察しています。患者さんの足を守るため、そしてなるべく長く自分の足で歩けるよう、看護師は患者さんと一緒がなっています。今後、地域の中核病院の血液浄化室として、最高の透析医療を提供して参ります。



## 公立富岡総合病院は病院機能評価の認定を受けました



### ★「病院機能評価」は日本医療機能評価機構による評価です★

患者さんの命と向き合う病院には、その医療の質を担保するために備えているべき機能があります。公益財団法人として1995年に設立された日本医療機能評価機構は、病院が備えているべき機能について、中立・公平な専門調査者チームによる「病院機能評価」審査を行い、一定の水準を満たした病院を「認定病院」としています。

### ★約90項目の病院機能を専門調査者が審査し評価しています★

評価する項目は「患者さんの視点に立って良質な医療を提供しているか」、「病院全体の管理運営体制は整っているか」など、約90項目があります。

信頼できる医療を確保することを目的に、専門調査者が病院の機能を評価し、その病院の課題を明らかにすることによって医療の質改善を進めるものです。

当院は、昨年12月に日本医療機能評価機構による病院機能評価を受審し、認定となりました。受審をするにあたり、1年前から委員会を立ち上げ、病院組織全体の運営および提供される医療について課題を見つけ、改善を行って参りました。職種を超えた職員が検討を重ねることで絆が芽生え、まさにワンチームとなって受審することができました。

今回の評価をもとに、地域に根ざし、安全・安心、信頼と納得の得られる医療サービスを提供すべく、努力を続けて参ります。

総務課 吉岡 智史

## 研修医の紹介



研修医1年目の峯村康平と申します。今年4月より富岡総合病院で研修をさせて頂いています。出身は長野県小諸市です。富岡の豊かな自然に魅せられました。この環境の中で研修が出来ることを大変嬉しく思っています。趣味はスキーです。群馬県のスキー場を開拓していくことが今後の目標です。まだまだ未熟ですが、ひとつずつ出来ることを増やして少しでも富岡地域の医療に貢献できるよう努力して参ります。至らない点も多々あるかと思いますが、よろしくお願いいたします。

峯村 康平

こんにちは。研修医2年目の小南次郎と申します。昨年度は本当にあっという間でした。学ぶことも多い一方で、自分の未熟さに何度もぶつかりました。自分にできること、できないことの境界線を知り、できないことは適切に周囲の人々に頼り・学び、“できる”ことを増やす1年間にしたいと思えます。富岡地域の医療に微力ながらも力になれたらと思います。まだまだ、未熟ものですが本年度もどうぞよろしくお願いいたします。 小南 次郎



初めまして。公立富岡総合病院研修医1年目の森村友紀と申します。出身は神奈川県ですが群馬県の自然豊かな町並みや人の温かさに魅了され、将来も群馬県の医療に貢献したいと考えています。趣味はゴルフと散歩です。富岡は自然に恵まれていてゴルフ場も多いので休日もとても充実して過ごせております。未熟ではありますが医療の面から富岡の皆様のお役に立てられるようがんばります。よろしくお願いいたします。 森村 友紀



研修医2年目の木村有希です。昨年に引き続き富岡総合病院で研修させて頂いております。趣味は旅行と食べ歩きです。昨年はあっという間に時が経ち、県外出身者の私を暖かく受け入れてくださり、無事1年を過ごすことができました。

今年もより多くの事を学んで、最後まで有意義な研修生活を送れるよう精一杯頑張りたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。 木村 有希



研修医1年目の神戸美欧と申します。群馬大学出身で、部活は合気道部に入っていました。趣味はスノーボードと旅行です。地元が富岡市なので、富岡総合病院で研修できることをとてもうれしく思っています。この地域の自然豊かなところや、おおらかで暖かい雰囲気が好きです。少しでも皆様のお役に立てるよう、一生懸命がんばりたいと思いますので、今後ともよろしくお願いいたします。 神戸 美欧



研修医2年目の片平です。昨年に引き続き富岡総合病院で研修させて頂いております。

もともとウインドサーフィンが趣味でしたが、故郷であるこの海なし県に帰ってきてからロードバイクを始めました。最近は富岡市内をよくポタリング（自転車の散歩のようなもの）しており、出身は前橋市ですが今ではすっかり富岡の街並みが馴染みになりました。富岡をはじめ群馬県西毛地域の広い医療圏をカバーする当院で地域医療に携われる喜びを日々実感しております。これからも精一杯努力して参りますので、よろしくお願いいたします。

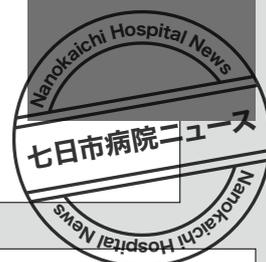
片平 雄大



皆さんこんにちは。研修医1年目の黒澤伸之と申します。出身は群馬県富岡市で、まさにこの富岡総合病院にて誕生いたしました。学生時代にはソフトテニス部に所属しており、体力にはそこそこ自信があり、この生まれ育った富岡でこれから医療を通して地域の方々に恩返ししていければと思っております。まだまだ新米な自分ではありますが、Made in 富総の名に恥じぬようこれから一生懸命頑張っていきますので、どうぞよろしくお願いいたします。

黒澤 伸之





ここからは、公立七日市病院の広報になります。

診療の特色や取組み、また、現在は新型コロナウイルス感染症拡大防止のために中止している研修会などの情報をお伝えする予定です。

当院は、在宅を目指す回復期の病院で、様々な職種が携わり安心して退院できるような支援をしています。専門職種が連携するチーム活動も盛んに行われており、そこから見えた在宅ケアやリハビリの知恵なども提供していきます。

この機関紙は、患者支援サービス課患者支援係と退院支援チームが中心となって企画しています。患者さんの身近な立場から、皆さんのお役に立てるよう紙面を充実させて参りたいと思いますので、お気づきの点がありましたら、どうぞお気軽にお声かけ下さい。

## 転院のご相談、紹介方法

現在、療養中の医療機関の相談担当者さまから、転院のご相談を受付けています。まずは、電話にてご連絡の上、下記の書類を送付して下さい。

- ★診療情報提供書
- ★患者さんのADLがわかるサマリ
- ★検査データ等

長期療養の病棟はありませんが、回復期リハビリテーションに該当しない方でも、お気軽にご相談ください。



患者支援サービス課患者支援係  
TEL:0274-62-5100 (代)  
受付時間 8:30 ~ 16:00  
FAX:0274-62-5211

## 入院のご相談をお受けします

例えば、からだがだるい、食欲不振が続いている、急な発熱や息苦しさがある、転んでから動くのが辛いなど、体の不調は大きな不安につながります。

そのような時は、是非、医療ソーシャルワーカーに相談してください。医療ソーシャルワーカーは医療機関に勤める福祉の専門職で、入院や受診をはじめ、介護、制度について様々な相談をお受けします。

地域の先生から入院のご依頼には、症状の理解と緊急性をはかる観点から入院担当の医師が直接お受けしております。



# 公立七日市病院の紹介

## 病院の特徴

公立七日市病院は、「地域に根ざした病院」として、急性期の公立富岡総合病院や近隣の施設などと連携を図り、回復期・慢性期・在宅ケアを担っております。

「患者中心の医療」という理念に基づき、職員ひとりひとりがチーム医療の一員としての自覚と責任をもち安全・安心な医療が提供できるように日々努力しております。また、常に患者・家族の立場にたち、その人がその人らしく生活できるよう退院支援の充実を目指し、多職種で協働し支援しております。



## 病棟

### 1 病棟

一般内科病棟  
（障害者施設等入院基本料）55床  
肺炎や慢性心不全などの内科疾患や神経難病などで医学的管理や入院が必要な患者を受け入れています。

### 2 病棟

地域包括ケア病棟  
（入院料1）57床

治療に併せて医師や看護師、病棟専従のリハビリスタッフや医療ソーシャルワーカー等の多職種が連携して、在宅（自宅や施設）復帰を目指す病棟です。

### 3 病棟

回復期リハビリテーション病棟  
（入院料1）57床



看護部長  
篠崎 美和子

脳血管疾患または大腿骨頸部骨折後などのリハビリテーションを集中的に行っています。

リハビリテーションプログラムはチームで立案しスタッフが丸となってリハビリを行っています。リハビリは病棟で行うことを主とし、日常生活面のリハビリに力が置かれます。

このように当院では、患者さんの状態にあつた病棟で治療しています。

特に高齢者の入院が多く寝たきりや廃用が懸念されるため、老人看護専門看護師や皮膚・排泄ケア認定看護師、認知症看護認定看護師などより専門的知識を持ったスタッフが活躍しています。さらに職種間の協力が必要な場面では、多職種チームで関るよう努めています。



外来・受付



リハビリテーション室



外来・訪問

外来

一般外来診療  
 (内科、神経内科、皮膚科、リハビリテーション科)

訪問診療

在宅で通院困難な方や神経難病の方、在宅での看取りを希望の方など、在宅での生活を支えるために、訪問診療に取り組んでいます。

昨年度は、自宅や老人ホームなどに延1,265件の訪問実績がありました。住みなれた場所で過ごしたいという希望を叶えるために、最期までしっかりと支援します。



在宅医療支援センター

訪問看護・居宅介護支援・療養通所介護の3つの事業を行っています。

地域で療養中の方々に対し、看護師やリハビリ職員など、ご自宅に伺い療養生活の支援を行っています。24時間体制をとり、安心して療養生活が送れるよう看護相談に応じています。また、必要に応じて、夜間・休日等の緊急訪問も行っています。

一般外来受診のご案内

午前

9:00-12:00

受付時間 8:30-11:30※

午後

14:00-17:00

受付時間 8:30-16:30

※皮膚科外来は、(月) 10:00からの診察になります。また、(月)(金)ともに受付は11:00までとなります。

		月	火	水	木	金
午前	内科	○	○	○	○	○
	皮膚科	○	-	-	-	○
午前	内科	○	○	○	○	○
	整形外科	-	-	○	-	-

2020年6月現在

胃カメラの検査をしています。まずは、内科外来に受診してください。

連絡先 富岡地域医療企業団 公立七日市病院  
 TEL:0274-62-5100 (代) FAX:0274-62-5211

# 富岡地域医療企業団 公立富岡総合病院・公立七日市病院 地域医療連携だより

富岡地域医療企業団の大きな使命として、この地域における医療と介護、福祉との連携システムの構築があります。

その足がかりとして、昨年度より公立富岡総合病院と公立七日市病院の医療ソーシャルワーカーを「患者支援係」として一つの課にまとめました。急性期から回復期へのシームレスな医療の展開が可能となり、患者の社会復帰への第一歩がより早くなりました。その他、セカンドオピニオンやがん相談支援センター、訪問看護や訪問診療などの相談窓口にもなっておりますので、どうぞお気軽にお問い合わせください。

また、各医療機関や行政、ケアマネジャーや介護施設など、日頃暮らしを支えている方々との連携を深めるために、新しく「医療サービス係」を設置しました。医療、介護職向けの専門的研修や、地域の住民に向けた公開講座の企画・運営とともに、地域の総合相談窓口の機能をますます充実させていきます。そして、みなさまとの垣根を取り払った「ワンストップサービス」を提供させていただきます。

今ご覧いただいている欄には、今後の当企業団の最新情報や、みなさまの暮らしに役立つ情報を掲載していきますので、これからもご愛読のほどよろしくお願いいたします。



## 交通の ごあんない



発行

富岡地域医療企業団 公立富岡総合病院

〒370-2393 群馬県富岡市富岡2073-1

TEL.0274-63-2111

FAX.0274-64-1406

<http://www.tomioka-hosp.jp>

[tomihp@mail.gunma.med.or.jp](mailto:tomihp@mail.gunma.med.or.jp)



富岡地域医療企業団 公立七日市病院

〒370-2343 群馬県富岡市七日市643

TEL.0274-62-5100

FAX.0274-62-5211

<http://www.nano-hosp.jp/>

[nanobyin@nano-hosp.jp](mailto:nanobyin@nano-hosp.jp)

